

具体策は？ 財政改革

貫井 徹 議員

市長は「広報とりで」に「米沢藩の改革を模範として、抜本的な改革に取り組み」と決意表明した。『大山鳴動して鼠一匹』と指摘されぬ改革の結果が肝要だ。

再び指摘するが、11万市民の先頭に立つ市長も米沢藩主上杉鷹山の率先垂範に学ぶべきだ。歴代市長に訴えてきたが、市長退職金一期4年ごと約2,000万円支給は、弁明しても善良な市民に到底理解されない。市職員再雇用問題への対処、地域手当も、平成4年、茨城県の指導を無視。マスコミもヤミ手当と報道した。合併により約1億5,000万円の支出だ。百年に一度と市民に協力を強いるなら、小手先の改革でなく『安易な借金に依存しない財政構造への転換』を強く提案する。

市長 首長等の退職金支給率は、県内統一で決まっているため、個人で勝手に決められない。現状では、私は適正なものと考えている。再任用職員は、来年度は半数程度に絞り込む。

地域手当は、人事院勧告では9%だが、3%に据え置いている。

厳しい財政でも 安心・安全なまちに

齋藤 久代 議員

厳しい財政状況ではあるが、水害、地震対策の中で、現在進めているものは、優先的に講じるべきと考える。

特に、水被害に対しては、何十年もそのままの状態の場所もあり、行政に対して信頼を失っている地域もある。そのような地域には、今後の取り組みを説明してほしい。

また、どの程度の雨量を基準とした対策をしているのか。

さらに、災害後の後片付けなどにすぐ派遣できるボランティア隊を組織すべきではないか。

市長 安心・安全へのものは最優先で取り組みたい。また、毎回、被害がある箇所は、来年度も重要課題



昨年8月末の集中豪雨時

として取り組んでいく。

次に、災害時の活動拠点となる市庁舎、消防署、学校は優先的に耐震改修を推進していく。

建設部長 市長は、市政協力員さんに対しての説明会等を行っている。希望があれば、随時、出向いて説明をしていく。

市内全域が50ミリアンペア対応で雨水幹線が完成していない。まずは、市内全域を50ミリアンペアで整備していきたい。

総務部長 災害ボランティアの登録をお願いできればいいと思う。

財政難でも手を抜くな 福祉・教育

吉田 宏 議員

突然10億円もの財政難となったが、これからの取手、国を担う子どもたちのために、福祉や教育という種まきには手を抜かないでほしい。

い。

こういうピンチだからこそ、子どもたちにはチャンスを与えて、取手の種まきという市長の思いを市民にわかってもらう大きなチャンスではないか。

10億円の削減のために予算を何パーセント削減しろと、おそらく各部署で言われていると思う。痛みを分かち合わなければならず、現場の先生だった教育委員長と教育長も心の底では泣いていると思う。そういう部分の市長の思いを伺う。

市長 小中学校の教育の充実のために、先生方も大変な苦勞をしていることは知っている。

歳出削減の具体策は、内部でしっかりもんでいきたい。一律何パーセント削減という方式は考えていない。

現場感覚をより高めるチャンスだと思って、議員と一緒にしっかり取り組んでいきたい。

外部に設置を！ 公益通報窓口

小泉 眞理子 議員

公益通報窓口設置の進行状況を伺う。市役所外部からの通報に関する要綱はあるが、内部からの通報については何も示されていない。

私は、内部通報を特に重視している。ただ、内部の



都市計画道路3・4・7号線（マスダ～ヤオコー間）

何とかせよ！ でこぼこ歩道

金澤 克仁 議員

都市計画道路3・4・7号線（マスダ～ヤオコー間）の改良については、毎定例会質問しているが、関係地権者との協議の中で、進展があったのか伺う。

また、この歩道は、でこぼこであり、非常に危険な状態である。何とか改善して、自転車も歩行者も安全に通行できるように改良を求めたい。

市長 歩道の段差解消について、改良工事に向けての測量と実施設計をまず進めていきたい。

建設部長 都市計画道路3・4・7号線の用地について、関係地権者間の境界立ち会いを初めて行った。まだ解決はしていないが、今後、進展すると考える。

※大山鳴動して鼠一匹…前ぶれの騒ぎばかりが大きく、実際の結果が小さいこと。